



01. 令和5年度 ライフサイエンス人材育成事業セミナー

～ 機能性食品を起点に新分野への挑戦 ～

2月20日、秋田県総合食品研究センターを会場に約50名の企業・団体が参加し、食の安全性や機能性成分などをキーワードに、新商品や新サービス開発など幅広い分野の開発事例を紹介するセミナーが開催された。



基調講演Ⅰ



奥野製菓工業 株式会社
常務取締役 大塚 邦顕 氏

[テーマ] 食の安全と機能性について ～奥野製菓工業の開発品から展望する～

奥野製菓工業は明治38年に創業、来年で創業120年を迎える。工業薬品は食品事業から始まった。創業当時に発売したベーキングパウダーは、改良を重ね、現在も同社を代表する製品のひとつだ。大塚氏は、日持ち向上剤、廃棄食材のアップサイクル、減塩・低糖質食品を支える機能素材の3つをテーマに講演を行った。日持ち向上剤は時代のニーズの変遷に合わせた開発を臨機応変に行っており、奥野製菓工業の研究・開発の歴史を知ることができる内容だった。また、廃棄食材のアップサイクルでは、これまでのさまざまな研究のなかで素材の性質を探求、その特性を活かし活用できるシーンを模索している。秋田県内でも活用したい食材があれば、相談して欲しいと呼びかけた。

基調講演Ⅱ



株式会社 フェニックスバイオ
取締役研究開発・生産部長
立野 知世 氏

[テーマ] 肝臓ヒト化マウスの医薬品開発への利用を目指して

医薬品開発試験にはヒト肝細胞が必須であり、その世界市場は数百億円と見積もられている。株式会社フェニックスバイオは、マウスの肝臓の大部分がヒト肝細胞に置換された「ヒト肝細胞キメラマウス」の安定生産に成功し、キメラマウスおよびヒト肝細胞の販売を行っている。立野氏からは、医薬品開発の動物実験においてヒト肝細胞キメラマウスを用いることで、動物とヒトとの種差によって起こる問題を克服し開発の成功確率を上げられる可能性や、近い将来、動物実験が全面廃止される際には、ヒト肝細胞を試験管レベルでの実験に役立てたいという話があった。さらに、今後の展望として、よりヒトに近いモデルへと近づけるための具体的な目標の紹介があった。

県内事例紹介



秋田県産業労働部
地域産業振興課
医療福祉産業チーム

秋田県の取組事例紹介

秋田県では医療福祉産業への参入支援を行っている。デジタルプラットフォームを構築し、オンラインビジネスマッチングなどを実施。そのほか、県内企業が行う医療福祉分野のデジタル化や現場ニーズに対応した製品開発への支援も実施している。



株式会社
リビドームラボ
研究開発部長
大戸 貴代 氏

食品開発展2023における 機能性関与成分分析をはじめとした 自社技術事例紹介

脂質の機能性分析を行う、秋田大学発ベンチャー企業であるリビドームラボ。令和5年10月上旬に開催された食品開発展2023にライフサイエンス人材育成事業補助金を活用して出展し、市場の調査に加え、新たなニーズの掘り起こしなどが得られたと報告を行った。



秋田県総合食品研究センター醸造試験場
主席研究員
畠 恵司 氏

あきた機能性食品素材研究会の紹介

秋田県内の保健機能食品開発を加速させる目的で県内に拠点を置く事業者と聖霊女子短期大学、秋田県とともに設立した研究会。県内の機能性食材は全国で見ると潤沢であり、多岐にわたる調査・研究を行っている。結果として、免疫生物研究所秋田解析センターとの共同研究により、肝がん細胞から分泌されるリポタンパク質の測定というオンリーワンの技術が開発されたという事例を紹介した。



参加者の声



新化食品株式会社 取締役／技術営業グループリーダー 相野 倫之 さん

当社は食品および食品添加物の製造・販売、主に製菓・製パンの材料、改良材などを取り扱っており、工場は鹿角市花輪にあります。これまで、おいしいものを作るということに携わってきました。今後、日本の人口が減っていく、高齢化が進んでいくことを踏まえて、おいしいだけではなく、健康に訴求できるような商品を見据えていきたいと考えております。今回、このセミナーのことを知り、秋田の企業とコラボしていけるような可能性を探りたいと思い、参加しました。これをきっかけに、新たな分野に踏み出せたらと考えております。

新化食品株式会社
〒104-0043
東京都中央区湊3-5-10
TEL.03-3537-6070
<https://www.shinka-s.co.jp/>
◎花輪工場
鹿角市花輪字大曲42-1